

# 【平成28年度下期顕彰先一覧】

年次	助成先名	業種	助成事由
平成28年度下期 9先	秩父ケミカル(株)	雨水貯留浸透施設の製造販売	雨水浸透処理施設の開発・施工・販売を行っている。都市開発が進み舗装等の不透透面が増加し雨水流出量が增大、集中豪雨も増加し、雨水は敷地内で処理するよう雨水貯留浸透施設等の設置が求められている。当社のニュートレンチ工法は従来建築の配管経路に設置するため、省スペース化で流入箇所が増えリスク分散にもつながる。通水性能と維持管理性能（槽内清掃を実現）を向上させ特許も取得した。雨水の流出抑制、浸水被害の軽減だけでなく、浸透した雨水は湧水保全や地下水の涵養効果があり、環境への影響でも評価されている。
	十三や柳店	つげ柳製造販売	1736年（元文元年）に初代が開業して以来、手作りのつげ柳の製造販売を行っており、現地で14代、280年続く老舗企業である。近年は安価な機械製造品の流通で廃業が相次ぎ、手作りで国内唯一の企業となった。材料は密度・硬さ・粘りがそろった柳に最適な薩摩つげを利用する。つげ柳は丈夫で静電気を抑え、地肌に優しく滑らかな梳き心地が特徴である。すべて手作りで、「柳は歯が命」であり最終的に出来上がる歯を逆算して作業を行い、鉄やすり、鯨皮、とくさやすり等道具を変えて表裏20回程手間をかけて磨き滑らかな歯を作っている。
	(有)中村印刷所	印刷・製本業	水平開きするノート「ナカプリバイン」を開発した。従来のノートは開いた時左右高さが非対称であったが、180°水平となる見開き性を備えた製本技術を開発し特許を取得した。水平に開くため書き易くコピー・スキャンも容易で、用紙の厚みやノートサイズ等バリエーションが豊富で環境にも優しい。通常のノートを開いてコピーすると中心が黒くなるが、この製品はコピー影が出ない。有名店でも売り切れ続出、各種学校関係、設計関連業等から作成オファーが殺到し、大手メーカーを通じてこの特許技術を活かした大量生産が決定した。
	(株)三栄	釣りの具の製造・販売	実験用マウス、ラット用ゲージ、給水ビン等を製造し、主に大学・理化学研究所に販売している。実験用マウスは口が小さく、実験で水を飲ませる量も決まっており、0.1mm単位での繊細な加工技術が必要である。製造から出荷まで無菌室で行うことから非常に手間がかかり他社は敬遠していた。当社は敢えて持前の技術を活かしてその分野に進出し、製品の評価は高い。
	(株)サウンドファン	音響機器の製造・販売	世界初の曲面サウンドを創る音のリアアプリースピーカーを開発した。高齢化社会の中で、皆に優しい音のリアアプリー社会を実現し、世界で普及するよう社会貢献に努めている。「ミライスピーカー®」は、蓄音機の構造からヒントを得て開発された楽器スピーカーで、楽器の曲面から人間の声を遠くまで明瞭に届けることが出来る。従来型スピーカーと異なり、曲面から飛び出すサウンドは、拡散せず耳元まで音を減衰させずに届け、従来型スピーカーからの音と両立してハイブリッドで使用可能である。
	(株)プロセスコバヤシ	印刷業	業界初となる特殊印刷による建材サンプル帳を開発した。従来の建材サンプル帳は現物建材を小さく断裁しカタログに貼って作成していたが、高コストで持ち運びも重く不便であり、製作時間も長かった。当社はサンプル帳の全てに実際の建材質感に限りなく近づけた特殊印刷技術を用いてカタログの軽量化に成功した。類似品はあるが当該製品ほどの高品質商品はない。
	(有)興之宮医科工業	医療用手術機器製造	医療用の「鉗子」を手作りしている。鉗子は江戸時代に日本に紹介され、日本の刀剣類の製造技術と結びついて現在まで伝承されてきた。組織を挟む・固定・剥離、等する刃のない鉗構造のもので200種類以上ある。江戸時代に7人いた鉗子製造者で、現在まで直系が唯一残る石川六郎氏を師とする4代目となる。特徴は、ネジ外れがなく長く使える仕組み、という要望から、ネジを使わず鉗子の幹をねじり上下部品を稼働させ繋ぎ合わせる「ねじった鉗子」（社のみ）であること、院内感染の問題等により殺菌洗浄を完璧にするという要望から「分解できる鉗子」を開発し、好評を得ている。
	(株)太陽油化	廃棄物処理業、リサイクル業	産業廃棄物である水溶性廃液（廃アルカリ/主に自動車冷却水のラジエーター液）の処理を減圧濃縮を用いて処理能力・環境影響改善に成功した。処理中に発生する濃縮液は再生燃料として産業用燃料の助燃材へ利用、蒸留水は施設洗浄水へ再利用可能である。濃縮処理の実現による成果は、①水処理施設の処理能力が改善、②廃アルカリの処理量の増加、③濃縮液のリサイクル、が挙げられる。
	(株)千代田テクノル <特別賞>	計量・理化学・光学機械製造卸	医療機関・原子力施設等における放射線業務従事者対象に「ガラスバッジ」による個人線量測定サービスを行っている。今回は従来のガラスバッジに工夫を加えた「新型ガラスバッジ」を開発し運用を開始した。測定範囲を拡大させ測定精度を向上し、最新技術を用いた新測定ライン「GASシステム」の運用を開始した。人体等に対する放射線の影響は震災以来注目されており、当製品は社会的貢献度も高い。